

小学校

★ ぶちおもしろい山口県の鬼遊び

教材：昔の鬼遊び

ねらい：山口県に伝わる鬼遊びを紹介し、規則や攻め方、守り方を工夫しながら、一定の区域で逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの動きを身につけることができるようにする。

〈学習指導要領：第1学年及び第2学年 Eゲーム イ鬼遊びに対応〉

教材について

鬼遊びは、仏教寺院の宮中行事である修正会（しゅじょうえ）の中で、「ついな」と呼ばれる鬼払いの儀式があるが、それが起源と言われる。平安時代700年代から始まる。江戸時代には、「比比丘女（ひふくめ）」「子をとり子とり」と呼ばれる鬼遊びが『骨董集』に描かれている。

山口県では、地域に根差したローカルルールで鬼遊びが行われてきたが、世代により伝統的に行われてきた鬼遊びを知らずに育ってきた現状がある。

そこで、山口県に伝わる鬼遊びを子どもたちに紹介することで、山口県の伝承遊びを継承し、仲間と一緒に夢中になって鬼遊びをする子どもたちの生き生きとした姿が期待できる。

また、鬼遊びを楽しく行うために、規則や攻め方を工夫し、現代版鬼遊びをつくることができるようにする。

体育科の鬼遊びは、集団対集団（チーム to チーム）で行うことが原則です。

鬼が1人で子が多くいる鬼ごっこは、授業づくりを工夫する必要があります。



鬼から子を守る親（3すくみの世界）

展開例

学習の流れ（単元）

全体計画（6時間）

前半 簡単な規則で行える鬼遊びをする。

例【高鬼】【十字がいせん】

後半 規則や攻め方を工夫しながら、逃げる、追いかける、陣地を取り合うなどの動きを身につけることができるようにする。

例【Sケン】【ろくむし】

授業づくりのポイント

◇前半は、相手からうまく逃げることや、空いている場所を見つけることが課題となるような鬼遊びから取り組む。

◇後半は、簡単な規則や攻め方、守り方を決めて、楽しく鬼遊びができるようにする。また、楽しかった遊び方を振り返ることで、現代版鬼遊びに発展させることができるようにする。

教材研究

十字がいせん

1チームの人数 5～10人ぐらい。

他の呼び方 十字／田んぼ／十字路

遊び方

- ① 田をコートにかき、鬼チームと子チームに分かれる。
- ② 鬼は鬼の道だけ動ける。
- ③ 子は自分が出発する場所を決め、鬼の合図（例10周と言う）で鬼の道を飛び越しながら、コートを回る。
- ④ 鬼にタッチされたら、コート外に出る。
- ⑤ 子が決められた周を回ったら勝ち。
- ⑥ 鬼は全員タッチしたら勝ち。（山口県キッズウェブ HP もっと知ろう山口県、山口県につたわるこどもの遊びから一部引用）



★ わたしたちの町と津波

教材：地域に伝わる祠とその言い伝え、古文書など

ねらい：過去にあった地域の津波や津波に対する地域の方々の意識について調査したり、発表したりしながら、防災への意識を高め広げる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

校区内にあるこの地域は、1854年安政南海地震によって大きな被害を受けたと言われている。そして、土地の記憶としての「祠」や言い伝えなどが残されている。東日本大震災がまだ記憶に新しい現在、おだやかな瀬戸内海に浮かぶ島にも津波がきたことについて知り、子どもたちは驚きとともに当時の状況に関心をもち、主体的な調査活動を行う。また、地域の方々を対象に防災意識の調査を行い発表することにより、災害の怖さや防災の大切さを実感する学習にすることができると考える。



地域に残されている祠

展開例

学習の流れ

- ①昔の津波について調べる。
 - ・家族や地域の方から、約160年前の津波について知っていることを聞く。
- ②地域の方々の防災意識を調べる。
 - ・地域の方々を対象に防災意識に関するアンケート調査を行う。
- ③調べたことをまとめ、発表する。
 - ・調査したことやアンケートの結果をもとに、防災意識を共有することの大切さを学習発表会で発信する。

授業づくりのポイント

- ◇導入時の津波についての調査については、当時のことを知っている方に体系的に話をしてもらえよう事前に依頼をした上で、子どもの直接の聞き取り活動を仕組む。
- ◇幅広くアンケート調査をし集計することで、地域の方々の思いを知ることができるようにする。
- ◇考えや思いを発表することで、防災の大切さを共有できるようにする。

教材研究

- ・「外入（とのにゅう）郷の祠」
みかん畑の中にある小さな祠。地元の郷地区の人の言い伝えでは、安政南海地震の際、この祠のある付近まで津波が押し寄せたと言う。祠の海拔は約18m。山口大学大学院の三浦房紀教授の話では、小川に沿ってこの高さまで津波が遡上してきたらしい。地元の山田収人さんらの尽力により、広く知られるようになった。
- ・「大島郡大観」 白澤白水・村上岳陽 大正8年
当時の大島郡の様子が詳しく書かれている。安政南海地震の被害も触れられている。
- ・「椋野のタコ岸」
安政南海地震の津波が引いた後、石垣にタコがしがみついていたらしい。地元椋野の人は、その石垣を「タコギシ」と呼んでいる。

他の取組例

- 県教育委員会配付資料「東日本大震災に係る資料集」(H24.2)を活用して、道徳との関連を図る

★ テングサで寒天ゼリーを作ろう～大島と海～

教材：テングサ

ねらい：地域の方々とかかわりながら、海岸でのテングサの採集や、テングサを使っての寒天ゼリー作りを行うことで、大島の自然や食文化に親しむ。

<学習指導要領：各校の定めた目標による>

教材について

海に囲まれた周防大島町には、海と共に生きてきた先人たちが創り上げてきた生活文化がある。しかし、現在の子どもたちの生活と海とのかかわりは弱いものになり、地域に伝わってきた生活文化もなかなか伝承されなくなっている。

テングサは、周防大島町の海岸で簡単に採取することができる。また、子どもがおやつとして食べるゼリーに加工することもできるものである。しかし、実際にこのような体験をしている子どもは少ない。そこで、地域の方々をゲストティーチャーとして招き、一緒に校区内の海岸でテングサを採ったり、寒天ゼリーを作ったりする体験活動を通して、大島の自然（海）の素晴らしさを体感させ、郷土に伝わる生活文化に愛着を深めることができる場を設定しようと考えた。



展開例

学習の流れ

<単元導入> (6月上旬)

- ①地域の海岸で食べられる海草を収集する。
- ②食べられる海草と地域の方々の食生活のつながりについて調べる。
- ③食べられる海草の中で、テングサについて調べる。

<寒天ゼリー作り> (9月)

- ①テングサの下処理をする。
(汚れを取る・干す)
- ②地域の方々をゲストティーチャーとして招き、テングサから寒天ゼリーを作り、会食する。

<単元のまとめ>

- ①テングサについて調べたり体験したりした活動をまとめる。
- ②学習発表会で発表する。
- ③地域の方々にお礼の手紙を渡す。

授業づくりのポイント

- ◇地域のゲストティーチャーと連絡を取り、体験活動及び学習のねらいを伝え、探究活動となるように方向付けをし、子どもたちが主体的に調べたり体験したりできるようにする。
- ◇ゲストティーチャーを招き、子どもと共に活動する場を設け、積極的に関わりながら活動できるようにする。
- ◇地域についての話や昔の生活についても聞かせてもらうことで、地域の暮らしへの子どもたちの理解や関心を深めるようにする。
- ◇テングサの下処理を体験させることで、安易に口にしていたものが食材となるまでにかかわる人の苦労を体験できるようにする。
- ◇全校や地域への発信の場を設け、体験活動を通して分かったことや感じたことを発表させることで、地域の自然や食生活のつながりを共に感じるようにする。

教材研究

- ・大島の食文化について参考資料「ひまわりがつづる 味の玉手箱」
- ・大島町健康生活推進協議会発行・編集 平成元年3月31日発行
- ・大島の伝統的な行事や、その行事にともなう伝統的な食事が記載されている。

他の取組例

- ・寒天ゼリー作りを通して環境問題にも意識を向け、クリーン作戦等の活動へ発展させる。

★ 郷土につたわるねがい ～鶺鴒～

教材：鶺鴒

ねらい：鶺鴒の仕事の特徴や道具を調べる活動を通して、鶺鴒匠の苦労や願いをとらえるとともに、伝統を受け継ぐことへの誇りや鶺鴒に対する愛情に気付くことができる。

〈学習指導要領：第3学年及び第4学年 内容(6)ウ に対応〉

教材について

鶺鴒は岩国藩主吉川広嘉の時代に始まり、約400年の歴史があるといわれている。戦争で一時中断したが、昭和26年に岩見屋保氏によって再開され、現在に至っている。

歴史と伝統を重んじる鶺鴒は、江戸時代とほぼ同じ手法で継続されてきているが、鶺鴒の管理や訓練、鶺鴒匠の修行、後継者問題、観光客の減少など様々な問題を抱えている。先人たちに大切に守られ受け継がれてきたこの伝統行事を今後も守り、伝えていくための努力や方法を考えさせることで地域への誇りと愛情を育むことができる教材である。



「鶺鴒の様子」

展開例

学習の流れ

- ① 鶺鴒に必要な道具について発表し合う。
- ② 道具以外で鶺鴒になくてはならないものについて考え、話し合う。
- ③ 鶺鴒（鶺鴒匠）の苦労について話し合う。
- ④ ゲストティーチャーの話を書く。

授業づくりのポイント

- ◇ 前時までに鶺鴒に必要な道具を見たり、鶺鴒匠の仕事内容について調べたり、実際の鶺鴒風景を映像で見たりすることで、鶺鴒に必要なものを具体的にイメージできるようにしておく。
- ◇ 鶺鴒匠をゲストティーチャーに招き、伝統を守る立場から、子どものいろいろな疑問に答えてもらう。

教材研究

- ・「広報いわくに 特集 錦帯橋の鶺鴒」(2012年8月1日号)
鶺鴒の歴史、舞台裏、伝統の継承と存続などについて取り上げられており、鶺鴒について分かりやすく解説されている。
- ・錦帯橋鶺鴒株式会社(岩国市横山2丁目7番3号)
鶺鴒の歴史や現在の取組等について聞くことができる。
URL <http://www.ukai-iwakuni.com>
- ・「錦川鶺鴒物語」錦川鶺鴒振興会発行【徴古館所有】
鶺鴒、鶺鴒匠、鶺鴒の歴史について詳しく解説されている。
- ・全国鶺鴒サミット(平成24年10月、岩国で開催)
鶺鴒のPR活動、地元への経済効果など様々な目的で毎年開催されている。

他の取組例

- 環境教育・・・鶺鴒は鮎のすむきれいな川でなければ行えないことから、環境を守ることの大切さに気付くことができる。
- キャリア教育・・・鶺鴒匠の何年にも及ぶ修行や自分の仕事に誇りをもって取り組む姿から、働くことの意味や尊さを考えることができる。
- 地域交流・・・鶺鴒舟が台風で流された時、岐阜県から長良川の鶺鴒舟が届けられたことから、鶺鴒を通しての交流や助け合いが行われていることに気付くことができる。

★ **伊佐の売薬（きょう土をひらく）**

教材：伊佐の売薬

ねらい：伊佐の売薬について調べを通して、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人のはたらきや努力を理解するとともに、自分たちの学校や地域社会に対する誇りと愛着を育てる。

〈学習指導要領：社会科第3学年及び第4学年 内容（5）ウ に対応〉

教材について

- ・伊佐の売薬は、江戸時代宝暦8年に藩の許可をうけて以来、地方産業として栄え、その行商は防長両国をはじめ、石州・北九州に及ぶ西日本有数の売薬業であった。
- ・廃業後、現在では当時を知る人も希である。しかし、「美祢市歴史民俗資料館」に保存・展示されている製薬・行商用具等は山口県有形民俗文化財に指定されている。
- ・売薬が、伊佐町の発展や伊佐小の成り立ちに関係していることや、先人の働きや苦勞を知ること、郷土への誇りや愛情を育むことができると考えた。



展開例

学習の流れ

- ①伊佐の売薬を調べる計画を立てる。
売薬への疑問、調べたいこと
(薬の作り方、作っていた場所、売り方)
- ②伊佐の売薬について調べ、話し合う。
インターネットで調べる。
道具の使い方や薬の作り方を予想する。
売薬をしていた家や資料館を訪ねる。
売りに行っていた場所を地図にかく。
- ③学習を振り返り、まとめる。

授業づくりのポイント

- ◇地域に古くから残る道具の一つとして、薬を作っていた道具を紹介する。
- ◇売薬に関係する商店街に残る古い町並みと伊佐小の前身である「友善塾」を紹介する。
- ◇売薬に詳しい地域の方の話を聞いたり、売薬をしていた家を訪ねる。
(岡田家や徳定地区、友善塾跡等)
- ◇歴史民俗資料館で調べる。
- ◇グループで伊佐売薬ポスターを作る。

教材研究

・美祢市歴史民俗資料館：美祢市大嶺町東分前川通り



丸薬用さじ



乳鉢



薬研



薬袋



トントコ

・南原寺
伊佐の売薬には、長門国で勢力のあった南原寺の修験道が関わっていた。



・友善塾跡
安政3年、徳定の地に郷校として誕生した。明治6年、学制発布により伊佐小学校に改称した。



他の取組例

・[6年生日本の歴史学習で] 伊佐の売薬で各地を回っていた商人たちによってさまざまな情報がもち帰られ、山口県の偉人吉田松陰にも伝わるようになり、江戸時代末期から明治時代にかけての時代の流れの中で、貴重な情報源として取り扱われていた。(美祢市の歴史資料から)

★ ふるさと伊陸を伝えよう

教材：糸あやつり人形

ねらい：伊陸に伝わる「糸あやつり人形」の動かし方の練習、発表を通して、伊陸のよさを知ると共に、協力して演じる楽しさを味わわせる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

糸あやつり人形は、伊陸に伝わる伝統芸能の一つで、かつては浪花節に合わせて演じていた。これを子どもでも演じることができるよう、伊陸の民話をはじめ、童話を子どもたちが朗読し、これに人形の動きを合わせるものに変えて行っている。演目の中には、卒業生が編集した民話もあり、伝統を受け継ぐという心構えを培うことができる。また、読み手とあやつり手とが協力して演じることを通して、協調性を養うことができる。

さらに、学習支援ボランティアの力添えも得ており、地域とのふれあいを深めるとともに伊陸のよさを伝える心構えを培うこともできる。



展開例

学習の流れ

- ①指導者との交流と演じる題目を選ぶ。
読み手と人形操作の役割分担。
- ②人形のあやつり方と朗読の練習
人形の動きを工夫する。
音読の工夫を考える。
- ③音読と人形の動きを合わせ練習をする。
読み手とあやつり手との呼吸を合わせて演じることに注意する。
- ④学習発表会で成果を発表する。

授業づくりのポイント

- ◇学校支援ボランティアとともに全員で作ら
あげることを理解させる。
- ◇あやつり方を学び、動かすことを楽しませ
る。
- ◇役割にしたがって、自分なりに読み方やあ
やつり方を工夫させる。
- ◇互いのよさを認め合い、繰り返し練習をさ
せる。
- ◇努力と成果を認め合い、伝統芸能のよさに
気付かせる。

活動の概要など

- ・現在学校では、浪花節「天野屋利兵衛」、伊陸の民話「そでとき沼のエンコウ」、童話「わらしべ長者」「赤ずきん」「ごんぎつね」「ゆうれいとタヌキ」「鉢かづき姫」「こっくりコウチン」「晴れる玉」、柳井の民話「般若姫」の10演目を所有している。「般若姫」は、柳井に伝わる民話を卒業生が編集した作品の一つである。これらの作品の音読を録音したものをCDに編集し直して保存し、練習の時の範として利用している。また、「やないまつり」の中でも発表の機会を設けていただいております、児童の発表力向上にも役立っている。

他の取組

- ・場面、人物の心情に応じた音読を工夫することで、国語教材での音読指導に関連付けることができる。
- ・日々の読書活動の推進を図ることができる。

★ 劇「勝間の浦人」を成功させよう！（5年生）

教材：菅原道真と勝間の浦人（伝承） <人物>菅原道真（菅公）、土師信貞（国司）、勝間の浦人（うらびと）。 <場所>防府天満宮、御旅所（おたびしょ）。
ねらい：劇を作り演じることを通して、校区に伝承されてきた道真と当時の勝間の浦人の心のふれあい（優しさや温かさ）を実感することで、学校や地域を大切にしていることとする気持ちを育む。

<学習指導要領：各学校の定められた目標による>

教材について

菅原道真（菅公）は、当時都で活躍していて、右大臣という地位まで上りつめていた。ところが、道真の出世をねたむ者たちの計りごとによって、遠く離れた九州の役人として務めるよう、都を追われることとなった。九州の太宰府へ下る途中、「勝間の浦（防府市）」に立ち寄った。当時の国司土師信貞は、勝間の浦人たちに菅原道真を手厚くもてなすよう話した。



浦人たちは、菅原道真の境遇を哀れみ、自分たちにできる精一杯のおもてなしをした。ほんのわずかの間でも、心休まるひとときを過ごしてほしいという思いは、道真の傷心を癒した。道真は、浦人たちの優しさに痛く感動した。そして、防府の地を離れる際、「わたしが、もし、太宰府で死ぬようなことがあったなら、私の魂は、必ずこの地に帰って来るであろう。」と言ったと言われている。やがて、その魂を祀るため、防府天満宮が建てられた。

このような「勝間の浦人」たちの心温まる話をもとに演ずることで、地域に伝承されてきた人々の心の優しさや温かさ、勇気について改めて知ることができる。そして、勝間という地で育つことに、誇りと愛着を感じることができるようになる。さらに、普段の学習では経験することのできない大勢の前で、劇を発表することで、自己を表現することの喜びを味わったり、みんなで力を合わせて一つのことをやり遂げるといった達成感を味わったりすることもできる。

展開例

学習の流れ（単元）	授業づくりのポイント
<p><単元・導入></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 劇「勝間の浦人」を成功させよう！ ① 昨年度の発表の様子をビデオで鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 劇の内容、表現の様子 ② どんな劇を作り上げたいかについて話し合う。 ③ 配役を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ビデオ（現6年生が5年生の時演じたもの）を見て、劇の内容や表現について感じたことを自由に発言させる。その中で、自分たちは、どんな劇を作り上げたいか、ビジョンをもたせ、そのためには何が必要かを考えさせる。 ◇配役については、児童の実態と児童の思いを考えながら、納得のいくように決定していくようにする。 ◇役作りについては、事実をもとにグループで話し合わせる。教師はその子のよさが出るようにアドバイスする。 ◇自分の役割に責任をもたせることで、準備物等についても、話し合わせ、できるだけ進んで用意できるように支援する。

<単元・展開1>

- 登場人物や時代背景を考えながら、役作りをしよう。
- ① 舞台設定の準備
 - ・大道具、小道具、衣装、背景づくり
- ② 登場人物の気持ちを考えながら台詞の練習をする。
 - ・グループ練習
 - ・台詞合わせ→振り付け
 - ・歌、踊り（浜子踊り）
 - ・立ち稽古

<単元・展開2>

- 発表本番へ向けて、心を一つにして劇の全体を演じよう。
- ① 全体の合わせ（劇を演ずる）
- ② 気づいたことや感想の述べ合い
- ③ 最終的な修正
- ④ 通し練習



道真と信貞

◎ 学習発表会当日

<単元・終末>

- 劇「勝間の浦人」の学習活動の振り返りをしよう。
- ① 学習を振り返っての感想
 - ・勝間の浦人「やさしさ・あたたかさ」について
 - ・心を一つにして演じたことについて
 - ・ふるさとへの誇りや愛着について

◇台詞の言葉のどこを強調するか、広い会場で届く声か、お互いに気づきを言い合い、声の出し方を考えるようにする。



台詞の練習

◇歌や踊りについては、日本古来の雰囲気但至少でも伺えるように、教師がポイントを捉えて指導し、6年生からもアドバイスをもらう。

◇発表本番へ向けての心構え等を話し、一人ひとりの力が集まって素晴らしい劇を作り上げようという気持ちを高めるようにする。

◇お互いに劇全体の様子を見合うことで、部分が全体にマッチしているか、当時の雰囲気が表現されているか、感想を言い合う。

◇当日は、時計、音響効果（テープ）、道具、指示等は、全て自分たちでこなすようにする。

◇学習活動を通して学んだことや、これからの生活に生かしたいことについてまとめ、学習の成果を自分たちで評価し合う。

◇また、上級生や下級生、保護者や地域、教師の声をアンケート等で聞き、達成感を味わうと同時に、新たな意欲、学校としての校風（伝統）を築くようにする。

教材研究

菅原道真公が船で着かれたのは、勝間小学校のすぐそばにある「御旅所」という場所である。（右の写真）



<御旅所>



<裸坊祭り（御神幸祭）>

<防府天満宮>



防府天満宮は、日本三大天神の中で最初にできた神社である。毎年、11月には「裸坊祭り」（御神幸祭）が行われ、御輿やお網代見たさにたくさんの人が参拝する。御旅所では、お網代の到着後、厳粛な神事が行われ、当時（道真と勝間の浦人たちの出会い）がまさに偲ばれる。

他の取組例

- 勝間の浦人太鼓（公民館で保存会の方から太鼓のたたき方を教わる。）
- 勝間の浦人の会（御神幸祭の時、御輿をかついで地域を周り、防府天満宮まで練り歩く。）

★ 地域の景色のよさを紹介する手習い歌を作ろう

教材：萩市に伝わる手習い歌「萩八景」

ねらい：「いろは歌」「天地の文」「萩八景」を読み、その表現方法や構成を話し合う活動を通して、独特のリズムや言葉の響き、昔の人のものの見方や感じ方などを知り、伝統的な言語文化に親しみを増すことができる。

〈学習指導要領：第5・6学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕Aに対応〉

教材について

この単元で取り上げる「いろは歌」「天地の文」「萩八景」は、子どもを対象として作られた手習い歌である。当時の子どもに知識として身に付けてほしい内容を独特のリズムに乗せて述べている。現代の子どもたちも繰り返し音読することで、比較的容易に内容が理解できるものである。「いろは歌」はやまぐち学習支援プログラムに、「天地の文」は教科書教材に取り上げられている。

「萩八景」は、元禄年間に定められた萩八景のことを、七五調の道行きの文体で表したものである。作者は不明で、寺子屋で使った手習い本の文句であると言われている。文章構成に目を向けると、日本人が昔から大切にしてきた四季の美しさやその移ろいの様子が、萩の川に沿って反時計回りに述べられている。現代の子どもが知っている地名や景色が文章中に登場するので、情景や作者の思い等をより自分に引き寄せて読むことが期待できる。

展開例

学習の流れ

〈単元の活動〉

- ① 「いろは歌」について話し合い、これからの学習の見通しをもつ。
- ② 「天地の文」を読み、手習い歌をつくるための視点について話し合う。
- ③ 「萩八景」を読み、手習い歌をつくるための視点について話し合う。
- ④ 自分たちの地域の景色のよいところを紹介する手習い歌を作る。

授業づくりのポイント

〈単元の活動〉

- ◇ 「いろは歌」には、文章の調子のよさ、内容のよさなどがあることに気付かせる。
- ◇ 「天地の文」には、上記の三つの事柄に加え、述べ方の順序の工夫があることに気付かせる。
- ◇ 「萩八景」に描かれている情景を今と比較しながら読ませる。
- ◇ 三つの手習い歌から導き出した視点を生かし、七五調の歌を詠み、構成を考えさせる。

教材

目	千	ま	は	夜	は	神	い	瀬	下	春	跡	つ	実	そ	小	花	白	物	芦	玉	う	は	馬	岩	み	こ	夕
出	本	た	や	の	こ	の	ひ	に	る	め	に	め	に	の	松	の	桜	さ	江	江	つ	や	手	に	な	れ	風
た	立	か	下	雨	ぶ	の	つ	あ	薪	き	沖	め	に	晚	江	頃	山	わ	の	浦	ろ	う	は	え	の	れ	の
き	ち	は	津	より	あ	恵	つ	ひ	の	き	原	た	鐘	に	より	の	が	を	の	ふ	ろ	う	は	え	の	れ	の
鶴	帰	ら	の	人	ゆ	み	つ	し	舟	渡	る	を	に	散	と	白	吹	吹	波	も	す	う	は	の	の	の	涼
江	る	ぬ	幾	繁	み	も	む	ら	の	る	上	ば	り	り	妙	く	秋	風	清	と	す	か	五	の	越	さ	つ
の	こと	ぶ	春	く	も	代	厳	ふ	棹	津	江	振	か	ひ	は	秋	の	の	淨	灯	と	鬼	の	え	来	つ	
夕	た	き	を	中	々	々	島	晴	と	に	に	す	け	び	は	音	月	の	の	し	五	の	の	あ	れ	れ	
照	め	は	雁	津	々	々	と	嵐	と	に	に	て	き	き	は	も	の	の	か	鬼	の	の	の	あ	れ	て	
か	し	ら	も	江	々	々	と	と	と	に	に	て	来	来	は	も	の	の	げ	の	の	の	の	の	の	の	
な	は	ぬ	を	の	々	々	と	と	と	に	に	て	来	来	は	も	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	

萩八景

★ 古代の稲を育てよう

教材：赤米作り

ねらい：地域にある遺跡で栽培されていたであろう、古代米（赤米）の生産体験を通して、生産の喜びを味わったりふるさとのよさを感じたりする。

〈学習指導要領：学校行事 内容（４）遠足集団宿泊の行事 （５）勤労生産奉仕の行事 に対応〉

教材について

校区には、弥生時代の埋葬遺跡である土井ヶ浜遺跡があり、近くにはその情報を展示・発信している、我が国唯一の人類学専門の博物館である『人類学ミュージアム』がある。弥生時代には米作りが始まり、赤米が栽培されていたということから、文化を守っていこうとする地域の方々とともに、ふるさと神玉のよさを感じ、ふるさとを愛する心を育めたいと子どもたちに赤米作りを体験させている。

子どもたちは、『人類学ミュージアム』にある田んぼで、ゲストティーチャーに習い、古代の人々の自然や生活に思いを馳せながら、貴頭衣を着て赤米の田植えや稲刈りをしたり、海での遠足に行き、収穫した米を炊いておにぎりにして貝汁と食べたりして、勤労の尊さや生産の喜びを体得させている。



展開例

学習の流れ

- ①赤米の苗植えをする。
- ②田んぼの草取りをする。
- ③古代の方法（石包丁やアワビの貝殻など）を使って稲刈りをする。
- ④海への遠足で、収穫した米を炊いておにぎりを作ったり、貝の味噌汁を作ったりして食べる。給食でも赤米ご飯を炊いてもらって食べる。

授業づくりのポイント

- ◇ゲストティーチャーの方から事前に苗の植え方について、説明を受ける。
- ◇稲刈りを前に、赤米の育成や古代の稲刈りの仕方について話を聞く。田植えの際に5本ずつ植えた苗が、平均24本の株に育つことや1本の穂に実る米粒の数を聞いて、成長を実感する。

教材研究

○土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム（どいがはまいせき・じんるいがくみゅーじあむ）

山口県下関市豊北町神田上に所在する弥生時代の墓地の遺跡。

1962年に国史跡に指定。1993年には「土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム」が開館。

所在地：下関市豊北町大字神田上891-8 Tel：083-788-1841 FAX：083-788-1843

ホームページアドレス：<http://www.doigahama.jp>

○古代米（こだいまい）

古代の稲の品種が持っていた特色を色濃く残した稲。中でも赤米や紫黒米（黒米）香り米という玄米に色や香りを持った米は、品種改良の対象にもならず、現在でも日本や世界の一部の地域で栽培され続けている。

他の取組例

○総合的な学習の時間との関連

例として、「稲を育てよう」「米を食べよう」等、児童の興味・関心に応じた課題設定による学習活動で活用

★ 受け継ごう！安田の糸あやつり人形浄瑠璃芝居

教材：周南市安田地区に江戸時代から伝わる糸あやつり人形浄瑠璃芝居

ねらい：地域に伝わる伝統芸能の継承を通じて、ひと、もの、ことに主体的にかかわり、自らの生き方を見つめたり、地域の良さを大切にしたりする心情を養う。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

・安田の糸あやつり人形浄瑠璃芝居（以下、人形浄瑠璃と表記）について
人形浄瑠璃は「語り（太夫）」と「三味線」と「人形遣い」の3つの役で上演されます。地元の学校では15年以上前からこの伝統芸能の継承に取り組んでいます。地域の人形浄瑠璃保存会「三丘三和会」の方々が週に一度学校に来られ、指導を受けています。

三和会とのふれあいや「三味線」「人形遣い」などの芸事に触れる活動、また学校や地域の文化祭での発表などを通じて、自らの生き方（自分のよさ）を考えたり、支えてくれる人への感謝の気持ちを養ったりすることができます。



展開例

学習の流れ

- ①役割（語り、三味線、人形遣い）を決め、三和会の方に教えていただく。
- ②同じ役割の友達と教え合い、別の役割の友達や先輩達にアドバイスをもらいながら、一人ひとりが技をみがく。
- ③人形浄瑠璃を保護者や地域の人にむけて上演する。

授業作りのポイント

- ◇三和会の方々から技術を習うだけでなく、伝統を守っていくことの意義について考えさせることで、地域文化を守ることの大切さや目標をもって生きることのすばらしさに気付かせる。
- ◇友達や先輩との関わりを通じて、自らの責任を自覚し、それぞれの役割の課題解決に向けて主体的に努力できるようにする。
- ◇人形浄瑠璃の上演を通じて、達成感を味わわせるとともに、これまでの活動を支えてくれた人への感謝の気持ちをもてるようにする。

教材研究

人形浄瑠璃は文楽ともよばれ、日本の伝統芸能の一つである。山口県内にもいくつか人形浄瑠璃を地域文化として受け継いでいるところがある。

安田の糸あやつり人形浄瑠璃芝居は、江戸時代に阿波の藍染商人がこの地を訪れ伝えたとされている。人形の大きさは、約50cmで、頭と両耳、両手につけた5本の糸を、上から一人の人が操って人形を動かす。保存会である「三丘三和会」により伝承され、県の無形民俗文化財に指定されている。



他の取組例

糸あやつり人形浄瑠璃芝居

社会科

人形浄瑠璃の歴史を調べたり、今も地域の伝統芸能として残っている地域を調べたりすることで、歴史、文化、地理の学習を深めることができる。

道徳

人形浄瑠璃は日本の誇る文化の一つである。また、地域の保存会の方に話を聞くことも身近な生きた教材となる。
高学年【4－（7）】など

国語

人形浄瑠璃の台本（床本）は昔の文章で書かれており、古文独特の響きを感じることができる。

★ 暮らしを支える石油工業

～日本初！和木町石油コンビナートの秘密～

教材：和木町石油コンビナート

ねらい：和木町の地理的条件や歴史的な背景を調べることにより、日本で初めて和木町に石油コンビナートが建設された理由を知ることができる。

〈学習指導要領：第5学年 内容(3)ア に対応〉

教材について

和木町にある石油コンビナートは、1958年に日本で初めてのコンビナートとして操業を開始した。すなわち、全国にある石油コンビナートは、和木町から始まったことになる。

その和木町は、平成25年に、町政40周年を記念して、和木町の歴史をまとめたDVDを作成した。そのDVDには、和木町に石油コンビナートが建設された理由が、地理的条件及び歴史的背景から説明されている。DVDを授業において活用しながら、日本初の石油コンビナートについて調べたり、考えたりすることで、郷土への誇りと愛着をもつことにつながる。



DVD画面

展開例

学習の流れ

- ①石油からできている製品を調べる。
～もし、石油がなかったら～
- ②石油から製品を作る石油コンビナートについて調べる。
～もし、コンビナートがなかったら～
- ③石油コンビナートが、和木町に初めてできた理由を考えたり話し合ったりする。
～もし、和木町に石油コンビナートがなかったら～

授業づくりのポイント

- ◇自分たちの生活が、石油によって支えられていることを石油精製品について調べることによって理解する。
- ◇原料である石油を輸入し、加工してから製品を作り出す石油コンビナートの基本的な仕組みについて調べる。
- ◇石油精製品を作り出す石油コンビナートが和木町に初めてできた理由をDVDの視聴から考えたり、話し合ったりする。

教材研究

○石油コンビナートを見学できる場所：JX日鉱日石エネルギー麻里布製油所

・JX日鉱日石エネルギー麻里布製油所見学の申し込み先

電話 0827-24-6100

・見学について

見学可能日時（月曜日～金曜日）

午前 10:00～11:30 午後 13:30～15:00

見学所要時間 1時間30分

見学可能人数 5名～60名（/回）

・やまぐち教育応援団

やまぐち教育応援団に登録されているため、JX日鉱日石エネルギー麻里布製油所からゲストティーチャーを招くこともできる。（和木・岩国地区）

○町政40周年記念DVDについて

問い合わせ先 和木町教育委員会 電話 0827-53-3123



他の取組例

○社会3・4年「工場の仕事」の学習において、石油精製工場についての調べ学習を行う。

○社会5年「工業生産と工業地域」の学習において、瀬戸内工業地帯の工業生産額における「化学」がしめる割合の高さについての調べ学習で、本教材を活用する。

★ 俳句を味わおう！～俳人「田上菊舎」に学ぶ～

教材：「ふるさとや名も思い出す草の花」 他2句

ねらい：田上菊舎の詠んだ3つの俳句を読み味わうことで、17音という短いフレーズの中に、作者の見た風景や思いが表されていることに気付くことができる。

教材について

〈学習指導要領：第6学年「C読むこと」ウ・オ に対応〉

田上菊舎は、下関市豊北町田耕に生まれた。16歳で嫁いだものの、24歳で夫と死別し、実家に復籍した。その後、俳人としての道を歩くことになった菊舎は、29歳で「芭蕉」と「親鸞」の旧跡を訪ねる旅を決意し、長府を旅立つ。それから40年余りの年月、俳句を詠みながら旅を続けた。菊舎が女芭蕉と呼ばれる所以はここにある。菊舎の詠んだ句は、4000句以上にも及ぶ。

田耕小学校の句碑にも詠まれている「ふるさとや名も思い出す草の花」という句は、菊舎が久しぶりにふるさとに帰ってきて、ふと足下の草の花に目をとめ、懐かしさを覚えている気持ちを詠んだものである。他にも二つの句を鑑賞し味わうことで、五・七・五という短いフレーズでも、目の前の風景や自分の思いを自由に表現することができることを理解できるであろう。

また、読み味わうだけでなく、自分で自由に句を詠む時間をもつことで、言葉のもつ深い意味について考えさせることもできる。

展開例

学習の流れ

〈本時の活動〉

- ①教師の説明を聞き、田上菊舎について簡単な経歴を知る。
- ②3つの句を声に出して読んでみる。
- ③菊舎の詠んだ俳句の季語と季節を見つける。
- ④3つの俳句について、菊舎がどんな風景や思いを詠んだ句なのかを自分なりに解釈する。
- ⑤解釈を発表し合い、友だちとの共通点や違いを見つける。

授業づくりのポイント

〈本時の活動〉

- ◇俳句には、必ず季節を表す季語が入っていることを確認する。昔の句に表現されている季節は、今の季節感とは多少違っていることも説明する。
- ◇難解な言葉については、説明を加える。
- ◇菊舎は、自分のふるさとや旅の途中で見つけた何気ない風景や感じたことを題材に句を詠んでいることに気付かせる。

教材

ふるさとや名も思い出す草の花 ①
 季語 草の花 季節 秋
 山門を出れば日本ぞ茶摘み歌
 季語 茶摘み 季節 春
 山中や笠に落葉の音ばかり
 季語 落葉 季節 冬



田耕小学校句碑①



菊舎の旅姿

教材研究

菊舎顕彰会（代表 岡 昌子）

〒759-5512 山口県下関市豊北町田耕 電話/FAX 083-783-0055 菊舎顕彰会ホームページ

著書 菊舎慕情 岡 昌子著 菊舎顕彰会発行

他の取組例

- 総合的な学習の時間において、菊舎の旅の足跡をたどる学習を仕組む。旅の途中で詠んだ句や各地に残されている句碑を調べることを通して、菊舎の人となりや人生について考えることができる。

★働くことについて考えよう

教材：ちびっこ屋台

ねらい：柳井まつりに「ちびっこ屋台」を出店し、野菜や花、地域の特産品の仕入れから販売までを行うことを通して、働く喜びや難しさを体験することができる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

柳井は古くから商業で栄えた町である。鉄道唱歌には、「風に糸よる柳井津の、港にひびく産物は、甘露醤油に柳井縞、からき浮世の塩の味」と歌われ、また、昭和の中頃までは、富士、住友といったいわゆる都市銀行が店舗を構えるなど、柳井は、地域の産業・経済の中心的な役割を果たしてきた。現在、多くの観光客でにぎわう「白壁の町並み」が当時の繁栄ぶりを象徴的に物語っているが、時を経てもなお、人が生き生きと働き、活気に満ちた、いわば「キャリアの町、柳井」の機運は、人々の間に脈々と受け継がれている。



「ちびっこ屋台」は、柳井商工会議所の全面的なバックアップのもと、商売の基本理念を学び、実際に商品の仕入れから販売、収支の計算までを子どもたちの手で行う学習である。一連の学習を通して、子どもたちが働くことについて真剣に考え、豊かな勤労観を育むとともに、子ども一人ひとりが、将来の社会人としての自身の姿を展望する貴重な機会になると考える。

展開例

学習の流れ

- ①事前学習（柳井商工会議所の出前授業4回）
ちびっこ屋台のイメージを明確にし、実際の活動に繋げるために、接客の仕方や店のレイアウト、会計の仕方を学習する。
- ②ちびっこ屋台（柳井まつり当日）
柳井小学校体育館前の駐車場に、6年生の3学級がそれぞれ「花」「野菜」「特産品」の屋台を展開する。児童が役割分担をし、販売と売上金の計算を並行して行う。
- ③学習のまとめ（柳井商工会議所の出前授業1回）
各学級ごとに収支の計算を行い、決算報告会を実施する。また、当日のビデオ視聴を行い、自分たちの活動の様子を振り返る。

授業づくりのポイント

- ◇それぞれの授業のねらいを担当が把握し、授業内容に必要な準備物を用意する。また、次回の授業までに、子どもに指導しておかなければいけないことなど、外部講師との連絡を密にし、スムーズに授業ができるようにする。
- ◇雨天の場合（体育館に屋台を設置）、天候の判断が難しい場合（前日に体育館に屋台を準備）、お客さんが少ない場合（呼びかけの範囲を広げる）など、想定できる対応を指導者が共通理解し、状況に応じて運営ができるようにする。
- ◇最後の会計まで子どもたちの手で行わせ、達成感や充実感を味わわせるようにする。また、ビデオの映像によって、自身の活動を客観的に評価できるようにする。

教材研究

○柳井市の特産品例

・「甘露醤油」

江戸時代に、当地の醸造家高田伝兵衛が創製した、色も成分も特に濃厚な醤油。もろみをつくる仕込みの工程で、食塩水のかわりに加熱しない醤油を使うのが特長である。

・「自然薯」

柳井市は、自然薯栽培の発祥地である。「政田自然農園」が栽培を可能にし、全国にその栽培方法が普及した。自然薯を使ったいろいろな種類の加工品も作られている。

・「金魚ちょうちん」

今からおよそ150年の昔、柳井津金屋の熊谷林三郎氏（さかい屋）が、青森の「ねぶた」にヒントを得、伝統織物「柳井縞」の染料を用いて創始したといわれている。最近では、金魚ちょうちんのデザインをあしらったノートやのし袋なども販売されている。

★ 鎖国のもとでの外国との交流～朝鮮通信使を通して～

教材：朝鮮通信使（上関町）

ねらい：朝鮮通信使の由来や歴史について学ぶことにより、国際交流や朝鮮通信使が始まった時代的な背景について考え、そこにかかわりのあった郷土に対して誇りと愛情をもつことができる。

〈学習指導要領：第6学年 内容（1）オ に対応〉

教材について

少子高齢化の進む上関町は、かつて海峡を有することで瀬戸内海が人や物、情報の交流の大幹線であり、近代以前から、海上交通の要衝として栄えてきた。朝鮮通信使について知ることで、上関町の歴史や国際交流について学ぶことができる。

江戸時代の朝鮮通信使は、1607年から12回実施されており、上関町には往復で22回通過し、19回立ち寄っている。通信使がやってくると岩国藩の補佐のもと、住民総出で接待にあたった。

通信使には隣国との平和的な関係を築くだけでなく、国内に幕府の権威を示すことや、鎖国を国是としていた当時の日本において、間接的にはあっても中国文化に触れることのできる数少ない機会となるなどいくつかの効果があつたとされている。



「朝鮮通信使船上関来航図」

展開例

学習の流れ

- ① 朝鮮出兵を秀吉が実施した理由や朝鮮の人の気持ちについて考える。
- ② 鎖国のもとでの外国との交流。
 - ・鎖国時代の朝鮮との交流について調べる。
 - ・この時代の港としての上関町の役割について調べる。（貿易等）
- ③ 朝鮮通信使物語（上関町 副読本）
 - ・通信使の役割と功績について調べる。
 - ・関わりのある史跡について学ぶ。

授業づくりのポイント

- ◇ 上関町にある史跡を実際に見に行く。
 - ・旧上関番所、上関御茶屋跡、朝鮮通信使船上関来航図 等
- ◇ 「朝鮮通信使物語」副読本（漫画）やビデオを活用し、上関町の歴史について興味をもちやすくする。
- ◇ 日本と朝鮮の立場のグループに分け、それぞれ朝鮮通信使について考え、発表し合う。
- ◇ おもてなし料理などの資料をもとに、朝鮮と日本の関係について考える。

教材研究

関連史跡・史跡跡・活用資料

- ・旧上関番所【右図】：港の警備、見張りの他、越荷会所で扱う積荷の検査や運上銀（税金の1種）徴収なども行っていた。番所は1632年四代地区（上関町）に置かれていたが、建物の破損が著しかったため1711年上関地区に移され、朝鮮通信使が上関に寄港する時に萩藩の番所とした。平成8年現在地に移された。
- ・越荷会所跡地：越荷とは北前船の積荷のことである。越荷会所は長州藩が、入港した船の積荷を一時保管する倉庫業や、積荷の委託販売業、積荷を抵当とした金融業などを行う金融機関として、設置していた。
- ・木造扁額：第八回朝鮮通信使一行が立ち寄った際に写字官が揮毫した墨跡を扁額にしたもの。
- ・上関御茶屋跡：御茶屋とは「藩の公館」のことで萩藩主毛利氏が江戸往復の途中、宿泊・休息のために建てたもの。また朝鮮通信使一行が上関に寄港した際には、正使、副使、従事官、上々官までが宿泊し藩内の文人たちと交流した。現在跡地には、正門跡の石垣と排水溝がある。
- ・唐人橋跡：朝鮮通信使上陸の地。
- ・郷土史学習館（上関町）：四階楼に隣接し、上関町の歴史文化についての資料が展示してある。
- ・「朝鮮通信使物語」【右図】：上関町作成の副読本、朝鮮通信使についての資料や文化交流について紹介した読み物。



★ 作品を読んで、自由律俳句を作ろう～江良碧松～

教材：「季節の言葉－俳句」

ねらい：地元俳人の業績や俳句から、俳句の内容の大体を知り、故郷田布施の様子を思い浮かべながら俳句を作ることができる。

＜学習指導要領：第5・6学年「B書くこと」に対応＞

教材について

地元自由律俳人の江良碧松の業績や俳句を調べることで、俳句への関心を高め、進んで音読しようとする態度や、季節を表す言葉に興味をもつことができる。また、田布施の自然や文化を生かし守り続けた、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。



展開例

学習の流れ

- ① 江良碧松の俳句を読み、内容と表現を味わう。
- ② 俳句の中から農耕に関する言葉を選んで、自分の考えを書く。
- ③ 身近な自然や文化を題材に、俳句を作り、紹介する。

＜生家の訪問＞

授業づくりのポイント

- ◇ 江良碧松の業績や俳句を紹介した文献や資料、また、生家や石碑を提示し、俳句に関心をもたせる。
- ◇ 米作りや畑仕事、自然の様子など身近な題材を使っていることをおさえ、俳句作りへの意欲を喚起する。

教材研究

- ・ 江良碧松は、種田山頭火、久保白船とならんで、俳句の周防三羽がらすと言われた。
- ・ 一生涯、地元で過ごし、農業や自然への思いを俳句にしたものが多く、農業の楽しさや自然の恵みを大切にされた江良碧松の生き方が分かる。
- ・ 俳句から当時の生活の様子がよく分かり、身近な農具や生き物、自然の移り変わりを俳句にしたものが多く、俳句の情景や俳人の心情を思い浮かべることが容易である。
- ・ 自由律俳句なので、子どもたちにも作りやすい。
- ・ 江良碧松の俳句保存会、生家などのゆかりの地、俳句集などがあり、町民に親しまれ、ゲストティーチャーも招聘しやすい。



＜生家のシンボル・銀杏の木＞



＜歌碑（町役場前）＞



＜生家近くの記念碑＞

他の取組例

江良碧松に関わる研究をしている人や自由律俳句を楽しんでいる人による俳句教室を開催したり、総合的な学習の時間を使って、「ふるさとの歴史・文化から新しい町を創造しよう」という題材に生かしたりできる。



＜俳句教室の様子＞

★ 先人 村田清風の生き方に触れ、「志」をもつ

教材：村田清風

ねらい：維新回天の礎を築いた村田清風の考えや生き方にふれることにより、先人に畏敬の念を抱くとともに郷土に愛着と誇りを持ち、強い信念をもって生きていこうとする心情をもつ。



〈学習指導要領：各校の目標に対応〉

教材について

村田清風は、天明3年、長門国大津郡三隅村沢江に生まれた。幼い頃は、その名（幼名を亀之助）から鈍亀と揶揄されるほど、学問に無関心であったが、母親の心情に接することで一念発起し、明倫館では大変優秀な成績を修めた。以後、毛利斉房から敬親までの5代藩主に仕え、困窮した長州藩の財政の立て直しや明倫館の改革、軍備の拡充などで辣腕を振るった。村田清風が行った天保の改革の中で特に有名なのが、特産品である防長四白（米・塩・紙・蠟）の振興（四白政策）を進め、当時8万貫といわれた藩の負債返済に着手したことである。また、厳しい軍事演習を行ったり、藩主にも質素儉約を説いたりするなど、自分の考えを押し進めた剛健気質がある。清風の数々の政策の成果によって長州藩の財政は立ち直り、士気も上がり、雄藩としてその後の明治維新に大きな足跡を残すことになった。

児童にとって、郷土の先人である村田清風の生き方やものごとの考え方を学ぶことは、自分の郷土に誇りと愛着をもち、正しいと思ったことは最後までやり遂げる強い意志をもったり、自分の生き方を考えたりするのに適した教材である。

展開例

学習の流れ

- ①清風の生い立ちや業績について調べる。
 - ・児童用副読本「清風読本」
 - ・村田清風記念館・三隅山荘（清風自宅）の見学
 - ・村田清風記念館館長からの講義
- ②三隅山荘から萩市別宅まで明倫館に通っていた距離（約21km）を実際に歩く。
 - ・チャレンジウォーク
- ③清風作の漢詩「餐麦買弓」の朗吟の練習を行う。
 - ・地域の方の指導
- ④清風の生い立ちや業績をまとめた劇を創作し、全員が役割をもって練習する。
- ⑤劇と朗吟を全校に発表する。
 - ・学習発表会

授業づくりのポイント

- ◇清風の生い立ちや時代背景について、現在の生活と比較しながら調べる。
 - ・子どもの頃のエピソード
 - ・勉学への志
 - ・四白政策の意味、清風の思い
- ◇毎日の通学路であった萩までの道のりを実際に歩き、清風の努力と苦労を実体験する。
 - ・草わらじでの歩行体験、途中の景色
- ◇漢詩に込められた清風の思いや決心を考えながら、朗吟する。
 - ・朗吟特有の歌い回し、発音の練習
- ◇台本、衣装、小道具をそれぞれ分担し、協力しながら進める。
- ◇学習の成果を全校に紹介することで、達成感を味わう。

他の取組例

- ・実際に防長四白（米、塩、紙、蠟）づくりを体験してみる。
- ・村田清風の活躍した時代から明治維新にかけての時代の変革を、長州藩の人物を中心にしてまとめる。（社会科の学習）
- ・清風の一生を絵巻物風にしてまとめる。（図画工作科の学習）



★題材名 萩の火山はこうしてできた！

教材：笠山および萩六島

ねらい：モデル実験を通して、笠山や萩六島の溶岩台地のできかたを理解する。

〈学習指導要領：第6学年B区分（4）、第1学年第2分野 内容（2）（7）に対応〉

教材について

2003年の気象庁の新しい定義による「活火山」（おおよそ過去1万年以内に噴火した火山及び現在噴気活動が認められる火山）は、現在、日本に110ある。萩市越ヶ浜にある笠山が1万年前から8800年前に噴火したため、萩市・阿武町・山口市に分布している50あまりの火山で構成された「阿武火山群」も「活火山」となった。「阿武火山群」の露頭（地層）の観察施設としては、2011年にイラオ火山灰層（萩市須佐・阿武町）が整備されたが、観光地として有名な笠山も、火山の噴火口や溶岩の流れの跡を間近に観察するのに大変適した場所である。



笠山（萩漁港より）

笠山を遠くから眺めると、上の写真のように「笠」のように見える。下の平らな部分は、安山岩の溶岩が流れ出てきた溶岩台地である。その上には、ストロンボリ式噴火（粘性のやや低いマグマのしぶきが、間欠的に、噴水のように噴き上がる噴火のタイプ）によってできたプリンのような形の小さな丘（スコリア丘）がある。



笠山火口（笠山山頂）

一般に、火山の噴火口は、噴火後、噴出物により埋まってしまうことが多いが、ここでは噴火口の中に入ることができる。赤く酸化し、気孔の多いスコリアを見ると、火山の噴火には気泡が関係していることが実感できる。



溶岩堤防（笠山海岸沿い）

それから、海岸へ降りると、溶岩が遠くまで流れることによって溶岩台地ができたしくみを考えるのに適した、さまざまなタイプの溶岩流を観察できる。海岸沿いの溶岩にも、気孔が多く、その形は溶岩が流れた向きを知り手がかりとなる。また、江戸時代に石材として切り出されたのみの跡を残した溶岩もあり、火山活動による恵みも感じられる場所である。

右の写真は、笠山山頂にある展望台から見た、萩沖に浮かぶ「萩六島」である。噴火当時（安山岩の溶岩を流した）は陸上であったが、現在は、海面の上昇により島となった。



萩六島（笠山山頂展望台より）

左側から、相島、羽島、尾島、肥島、櫃島、大島

右の写真は萩市内の方を向いたときの景色である。笠山に近い方から（写真では左側から）狐島、中ノ台、鶴江台が眺望できる。（玄武岩の溶岩でできた）



左側から、狐島、中ノ台、鶴江台（笠山山頂より）

これらはすべて「阿武火山群」の火山で、どれも平らな地形をしており、阿武火山群独特の美しい景色をつくっている。

展開例

学習の流れ（単元）

①笠山ってどんな火山？

現地での観察、または映像による紹介

- ・スコリア丘のつくり、スコリアの観察。
- ・海岸での溶岩の観察。
- ・山頂から見える溶岩台地。

②火山は

どうして噴火するの？

火山の噴火のエネルギーのモデル実験

- ・炭酸飲料などを用いたミニ噴火。→ → →



③火山の形のひみつ！

火山のできかたのモデル実験

- ・小麦粉または歯科印象材を用いた噴火実験。→



④溶岩が遠くまで流れるしくみ！

溶岩の流れのモデル実験

- ・ポリエチレングリコールによる溶岩流。
- ・ココアと練乳を用いた溶岩流。→



⑤わたしたちの生活と火山

火山の恵みの紹介

- ・豊かな漁場
- ・肥沃な大地
- ・おいしい水
- ・石材
- ・美しい景色 他



石材を切り出した跡

授業づくりのポイント

◇笠山山頂のスコリアと海岸での溶岩のちがいを共通点を見つけさせる。気泡がたくさん含まれているが、その形や大きさなどに注目させておくと、②や④の学習につなげることができる。笠山山頂からはたくさんの火山が見えることや、それらの火山が平らな地形になっていることにも気づかせたい。

◇炭酸中に含まれる二酸化炭素をマグマ中の水（水蒸気）と見立てて、噴火の仕組みを説明する。

◇小麦粉を用いた噴火実験は、粘性が調節しやすい。歯科印象材を用いた噴火実験では、複数回噴火させ、印象材が固まった後でボーリングができるので地層のつながりを理解させるのに役立つ。

◇溶岩が遠くまで冷え固まらずに流れて、溶岩台地ができる。笠山で見られる溶岩じわや溶岩堤防のでき方のモデル実験を、薬品や身近にある食材を用いて行う。現地で観察しておくとも実感が増す。現地での観察ができない場合は、溶岩が流れている映像を視聴させるとよい。

◇火山は災害ももたらすが、私たちの生活の中には火山がもたらした恵みもあることにふれる。具体的な特産物を挙げると分かりやすい。

教材研究

○HP「山口の火山」

○「萩の火山のひみつー阿武火山群ー」 著者 永尾隆志

○萩博物館

○「世界ーおいしい本〜チョコやココアで噴火実験〜（自然とともに）」 著者 林信太郎

○日本火山学会第18回公開講座「火山学者と火山を作ろう！」テキスト

○平成18年度山口県中学校理科教育研究大会・萩大会 資料

他の取組例

○総合的な学習の時間の「ふるさと学習」

- ・・・身近にあるふるさとを自然を教材に、さまざまなテーマでの調べ学習